

# TAKARA & COMPANY (TYO:7921)

**安定収益と厚いネットキャッシュは魅力。AI実装の収益化が今後の株価評価を決める。**

## 投資判断

**保有継続。未保有なら新規ポジションを検討できる。**

株式会社TAKARA & COMPANY（以下、同社）の現時点の投資判断は、保有継続が基本であり、未保有であれば新規にポジションを取ること十分に合理的である。第3四半期累計は増収増益を確保し、通期計画も維持された。安定収益、高配当、厚いネットキャッシュという投資魅力は変わっていない。

120円配当の継続見通しに加え、AI関連サービスが実装段階へ進んだことは評価できる。一方で、資本政策の具体化とAI収益化の定量開示はなお不十分である。このため、保有継続は妥当だが、ここで強くウェイトを引き上げる判断にはまだ早い。

制度開示を核とする基盤事業は安定しており、予想PER16.3倍、実績PBR1.63倍、ROE14.1%、ネットキャッシュ約159億円という指標のバランスも悪くない。加えて、ROE、ROIC、経済価値創出スプレッド（ROIC-WACC）は年ベースで着実な改善傾向にあり、同社が長期にわたり安定的に収益力と資本効率を高めてきたことも評価できる。WizLaboを軸としたAI機能実装の進展も踏まえれば、比較的ソリッドな業績見通しに照らして現在の株価評価はなお抑制的であり、一定の評価余地を残している。バリュエーションの切り上げには、AI関連売上や導入件数、利益率改善、資本政策のいずれかで、定量的な前進を確認したい。

◇ **2026年5月期第3四半期決算ハイライト：増収営業増益は維持したが、利益率は人件費と先行費用で鈍化。AI商材の収益寄与が今後の焦点。**

2026年5月期第3四半期決算は、本業は堅調だが、利益率は先行投資でやや重い内容であった。第3四半期累計の売上高は223.30億円で前年同期比6.1%増、営業利益は25.32億円で同2.5%増、経常利益は26.80億円で同2.0%増となり、増収営業増益は確保した。一方、親会社株主に帰属する四半期純利益は16.82億円で同1.0%減、営業利益率も11.3%と前年同期比0.4ポイント低下しており、利益面の伸びは売上ほど強くない。

増収の主因は、ディスクロージャー関連事業と通訳・翻訳事業の両輪がそろって伸びたことである。ディスクロージャー関連事業は売上高156.78億円で前年同期比5.8%増、セグメント利益18.72億円で同3.1%増となった。コンサルティング案件の増加に加え、株式会社ジェイ・トラストの連結寄与が押し上げ要因となり、金融商品取引法関連製品は70.77億円で同7.9%増、会社法関連製品は31.45億円で同11.0%増と堅調であった。他方、IR関連製品は統合報告書が伸びたが事業報告書等が弱く、42.39億円で同0.5%減にとどまった。

通訳・翻訳事業はより強い。売上高66.52億円で前年同期比7.0%増、セグメント利益5.15億円で同44.1%増となり、利益の伸びが全社を支えた。背景には、通訳で全取引社数、新規取引社数、大型案件数がそろって増加したことに加え、AI通訳関連の拡販、翻訳でのSIMULwiz受注積み上げ、エンターテインメント分野への進出、多言語対応拡充がある。外注費増という逆風はあったが、売上増と業務効率化が上回った。

一方、販管費の増加が利益率を圧迫した。給料及び手当は30.35億円と前年同期比約2.76億円増、福利厚生費は6.57億円で同0.68億円増、のれん償却額は2.64億円で同1.06億円増となり、販管費総額は67.55億円まで増えた。純利益が減益となったのも、税負担増の影響が大きい。ただし、これは需要失速による悪化ではなく、人員体制強化やM&A後の費用増、将来売上を取り込むための先行負担の色彩が強い。

加えて、2026年2月には約30億円の自己資金によるオフィスビル取得が前倒しで実行され、ディスクロージャー関連事業のセグメント資産は前期末比32.47億円増加した。会社側は業績影響を軽微としており、自己資本比率も81.4%を維持している。総じて、第3四半期決算は増収基調を維持しつつ、先行費用の増加で利益率がやや弱くなった内容である。市場が今後求めるのは増収確認ではなく、AI新商材が販管費増を上回る収益寄与を示せるかである。第4四半期以降に利益率改善や新サービスの定量開示が進めば、評価はもう一段強まりやすい。

3Q決算アップデート

その他製品

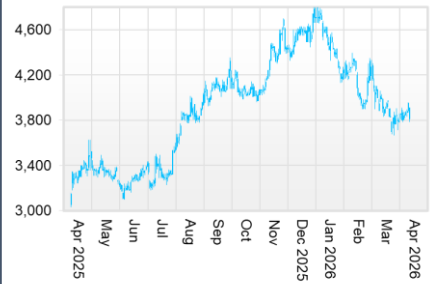
2026年4月10日

株価(4/9)

**3,810円**

52週高値/安値	3,005/4,795 円
1日出来高(3ヶ月)	32.5 千株
時価総額	501.1 億円
企業価値	335.9 億円
PER(26/5予)	15.9 倍
PBR(25/5実)	1.6 倍
予想配当利回り(26/5)	3.2 %
ROE(25/5実)	14.1 %
営業利益率(25/5実)	13.6 %
ベータ (5年間)	0.4
発行済株式数	13.153 百万株
上市市場	東証プライム

株価



当レポート(投資レポート)は、TAKARA & COMPANYの依頼を受けて作成しております。詳しくは、最終ページのディスクレーマを参照ください。



## ◇セグメント分析：収益の土台はディスクロージャー関連、成長の加速役は通訳・翻訳事業。

同社のセグメント構成は、安定収益を稼ぐディスクロージャー関連事業と、利益成長をけん引する通訳・翻訳事業の二層構造である。2026年5月期第3四半期累計の外部売上高は、前者が156.78億円、後者が66.52億円で、売上構成比はおおむね7対3。セグメント利益は前者18.72億円、後者5.15億円で、利益の中心は引き続きディスクロージャー関連事業が担う。

- ・ディスクロージャー関連事業は、上場会社約3,900社とIPO予定会社約1,000社を主顧客に、有価証券報告書、決算短信、招集通知、統合報告書などの作成支援を、ソフトウェア提供、チェック、コンサルティング、翻訳、制作・印刷まで一気通貫で提供する事業である。WizLabo上位機種種の累計導入社数は1,803社まで拡大している。
- ・通訳・翻訳事業は、官公庁、グローバル企業、国内外事業会社を顧客に、通訳、遠隔同時通訳システム、機材、人材派遣、翻訳、AI翻訳、ローカライズなどを提供する事業である。開示翻訳と一般法人向け翻訳の双方を持つ点に特徴がある。

直近業績では、ディスクロージャー関連事業は前年同期比5.8%増収、同3.1%増益で、株主総会招集通知や統合報告書の伸長に加え、ジェイ・トラスト連結化が寄与した。内訳は金融商品取引法関連70.77億円、会社法関連31.45億円、IR関連42.39億円、その他12.16億円で、金融商品取引法関連が最大である。通訳・翻訳事業は同7.0%増収、同44.1%増益と伸びが大きく、通訳の大型案件増加、AI通訳の拡販、翻訳の多言語対応拡充やSIMULwizの受注積み上げが収益改善をけん引した。

守りのディスクロージャー関連事業の上に、通訳・翻訳の利益回復とAI関連商材が上乘せされる構図である。

## ◇2026年5月期業績予想：通期計画の達成確度は高まったが、株価評価の決め手は第4四半期の利益率とAI商材の初速である。

2026年5月期の会社計画は現時点で達成可能性が高い。会社予想は売上高330.00億円、営業利益44.00億円、親会社株主に帰属する当期純利益31.00億円、1株当たり配当120円で据え置かれており、第3四半期累計の進捗は売上高67.7%、営業利益57.6%、純利益54.3%である。外部データベンダー上でも同数値が2026年3月25日時点で反映されており、足元で会社計画が維持されていることが確認できる。

中期経営計画2026の最終年度目標は、売上高330.00億円、営業利益44.00億円、営業利益率13.3%、親会社株主に帰属する当期純利益31.00億円、ROE10.0%である。補足資料では、2025年5月期までの進捗と2026年5月期の事業分野強化を踏まえて最終年度目標を修正したうえで、ディスクロージャー関連ではWizLabo2.0の機能拡充、統合報告書制作・コンサル体制の強化、通訳・翻訳ではSIMULwiz拡販やAI通訳商材の拡充を進行施策として示している。単なる売上成長ではなく、制度変更対応とAI実装を収益化する計画である点が重要である。

ポジティブ要因は三つある。第一に、ディスクロージャー関連事業ではWizLabo上位機種種の累計導入社数が1,803社まで拡大し、IPOシェアも51.5%を確保しており、既存基盤が強いことである。第二に、プライム市場上場企業での日英同時開示義務化を背景に、ディスクロージャー翻訳需要が増えていることである。第三に、2026年2月から3月にかけて、AI記載チェック・AI数値チェック、プレゼンテーションAI翻訳サービス、WizLabo AI Translateが相次いで投入され、成長施策が構想段階から販売段階へ移ったことである。

一方、第3四半期累計の営業利益率は11.3%と前年同期比0.4ポイント低下しており、人件費増加など固定費の上昇が続いている。加えて、会社計画は営業増益を見込むが、最終利益は前期比23.9%減の31.00億円計画であり、見栄えは強くない。さらに、AI新商材は提供開始までは確認できるが、売上寄与や導入件数の定量KPIはまだ乏しい。したがって、計画未達の主因になるとすれば需要不足ではなく、費用増を上回る単価上昇と効率化が第4四半期に十分顕在化しないことである。

会社計画は過度に楽観的ではなく、現時点では達成射程内とみる。ただし、株価評価の観点で重要なのは通期着地そのものよりも、AI関連サービスが2027年5月期以降の増益ドライバーとして定量化されるかである。2026年5月期は中計最終年度の着地確認、次年度はAI実装の収穫期へ移れるかの検証局面であり、第4四半期や次期初計画で導入件数、単価、粗利率改善のいずれかに踏み込んだ開示が出れば、投資判断はもう一段強めやすくなる。

## ◇株価動向と今後の注目点：株価は調整後の落ち着きどころを探る局面。今後の株価評価を左右するのは、AI関連売上や導入件数などの定量開示。

株価は2025年12月高値から調整した後、足元では落ち着きどころを探る局面にある。PER16.3倍、PBR1.63倍、配当利回り3.13%という水準は、安定収益と財務の強さを一定程度織り込んでいる一方、AI成長を大きく先取りする評価には至っていない。市場は、安定収益と財務の強さは評価するが、新サービスがどこまで利益になるかはまだ見極めたい、という見方である。



最近の材料と株価反応を見ると、市場が何に反応しているかは比較的明確である。1月26日の固定資産の所有権移転日変更は、約30億円を自己資金で投じる内容だったが、1月23日終値4,350円から1月26日終値4,270円へ下落しており、株価の押し上げ材料にはならなかった。他方、2月5日の「プレゼンテーションAI翻訳サービス」は2月4日4,190円から2月5日4,250円へ1.4%上昇、2月27日の「AI記載チェック」「AI数値チェック」は2月26日4,190円から2月27日4,320円へ3.1%上昇と、AI関連IRには素直に買いが入った。もっとも、3月6日の「WizLabo AI Translate」本格提供開始は3月5日4,060円から3月6日4,070円へ0.2%高にとどまり、AIという言葉だけで評価がもう一段切り上がる局面ではないことも示した。

3月25日の2026年5月期第3四半期決算に対する株価の動きも、今の評価をよく表している。3月24日終値3,770円に対し、3月25日終値は3,765円とほぼ横ばいだったが、出来高は68,500株まで膨らみ、その後は3月26日3,810円、3月27日3,840円まで戻した。失望売りが広がったわけではないが、決算だけで一段高に入るほどの驚きもなかったという受け止め方が自然である。

テクニカルに見ると、3,700円前後は一度買いが入った水準として意識されやすく、ここを明確に割り込まない限り下値不安は大きくない。4,000円台に戻ると上値が重く、4,100円近辺は戻り売りが出やすいゾーンである。保有継続に不安はないが、強気に買い増すにはなお材料不足である。今後の評価材料は、AI関連売上や導入件数が数字で見えてくる開示である。そこが確認できれば、評価軸は業績安定株から再成長株へ広がりうる。

## 会社概要

### ◇ 情報開示の基幹工程を握る、開示・言語・システムの複合プラットフォーム

株式会社TAKARA & COMPANYは、法定開示支援を中核に、任意開示、通訳、翻訳、システム、コンサルティングを束ねて提供する情報開示インフラ企業である。2025年5月31日現在の連結従業員数は1,245名、グループ会社は21社である。

同社の強みは、開示書類の作成支援を単体サービスではなく、顧客業務に深く入り込む一気通貫型ソリューションとして提供している点にある。法定開示書類、統合報告書、IR資料の作成支援を、システム提供、内容チェック、コンサルティング、通訳・翻訳、制作・印刷まで連続した工程で支援しており、顧客は複数ベンダーを跨がずに開示実務を完結できる。これが高いスイッチングコストと継続取引を生み、同社の収益基盤の安定性につながっている。上場会社約3,900社、IPO予定会社約1,000社を中心とする顧客基盤も、競争優位を裏付ける。

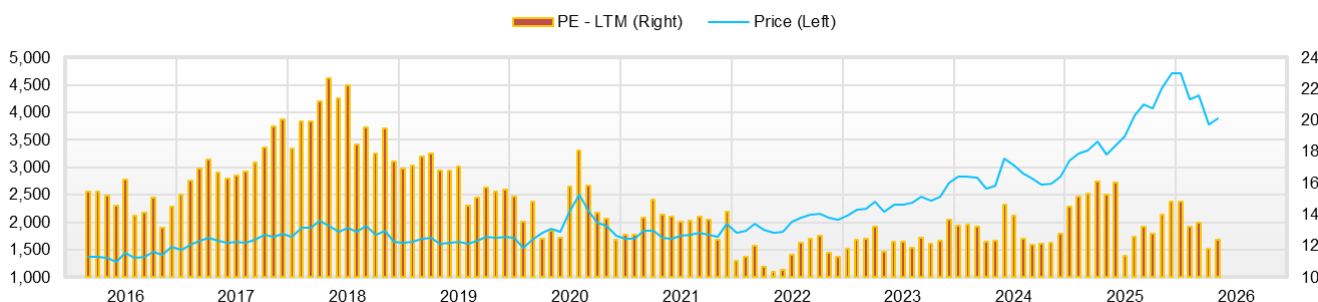
事業ポートフォリオは、ディスクロージャー関連事業と通訳・翻訳事業の二本柱で構成される。前者では制度開示書類、IR、ICT、コンサルティング、近年では金融商品開示やPR支援まで領域を広げ、後者では一般翻訳、AI翻訳、同時通訳・逐次通訳を展開している。足元では「WizLabo」を核にAI記載チェック、AI数値チェック、AI翻訳を実装し、従来の開示支援企業からテクノロジー活用型企业へと色彩を強めている。

## 主要財務データ

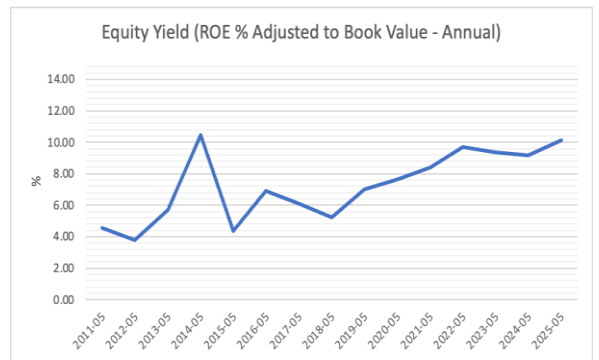
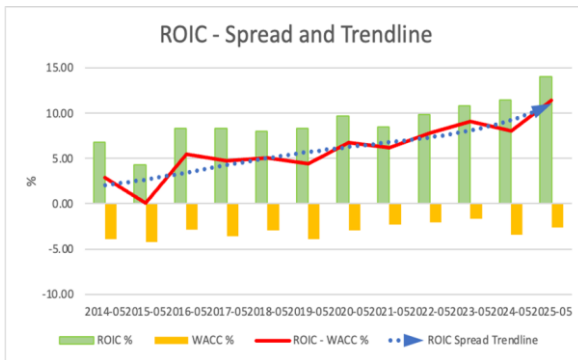
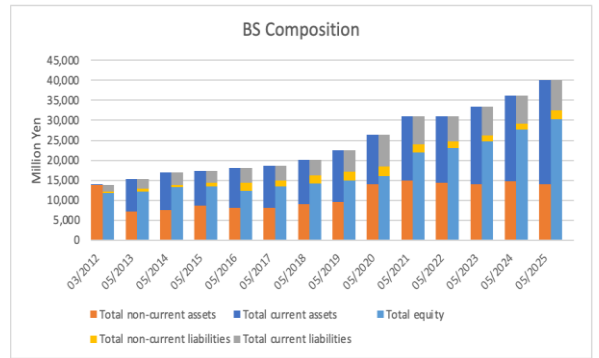
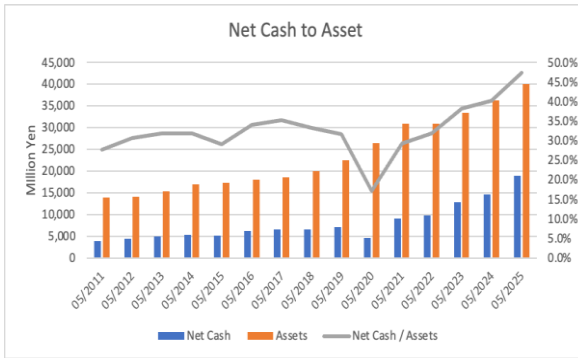
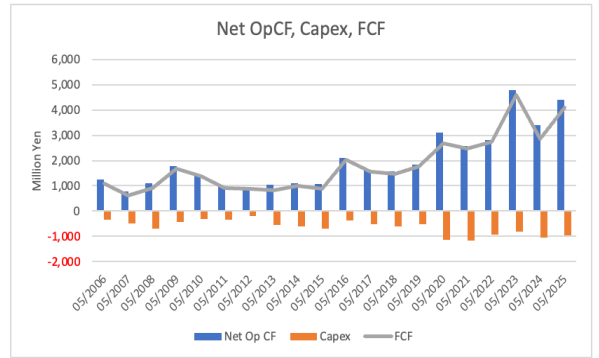
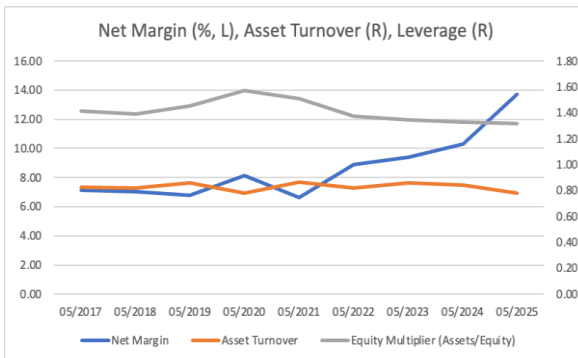
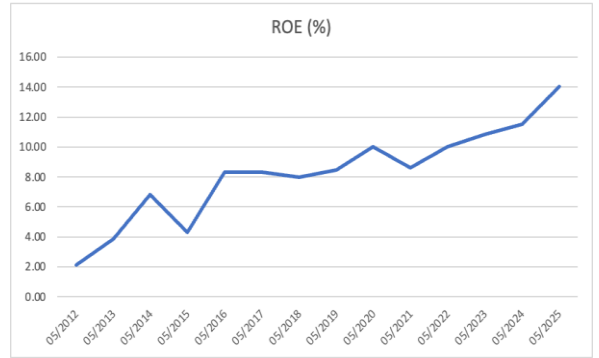
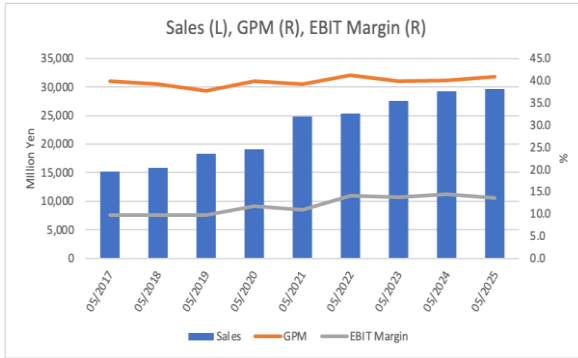
単位: 百万円	2021	2022	2023	2024	2025	2026 会社予想
売上高	24,777	25,318	27,568	29,278	29,679	33,000
EBIT (営業利益)	2,707	3,561	3,812	4,232	4,049	4,400
税引前収益	2,933	3,630	4,010	4,454	6,018	
親会社株主帰属利益	1,640	2,250	2,596	3,014	4,076	3,100
現金・預金	9,745	10,296	13,139	14,641	19,146	
総資産	30,972	30,924	33,444	36,195	40,058	
債務合計	702	441	367	107	209	
純有利子負債	-9,042	-9,856	-12,773	-14,534	-18,937	
負債総額	8,504	7,560	8,361	8,194	9,331	
株主資本	21,920	23,069	24,763	27,645	30,335	
営業活動によるキャッシュフロー	2,569	2,802	4,794	3,412	4,391	
設備投資額	1,183	945	824	1,052	957	
投資活動によるキャッシュフロー	-1,395	-957	-763	-889	1,248	
財務活動によるキャッシュフロー	1,193	-1,234	-1,192	-1,371	-1,127	
フリーキャッシュフロー	2,486	2,734	4,608	2,860	4,083	
ROA (%)	5.71	7.27	8.06	8.66	10.69	
ROE (%)	8.63	10.00	10.85	11.50	14.06	
EPS (円)	130.0	171.3	197.7	231.8	314.0	240.1
BPS (円)	1,672.2	1,754.8	1,895.9	2,130.2	2,337.1	
一株当たり配当(円)	54.00	58.00	70.00	80.00	120.00	120.00
発行済み株式数(百万株)	13.15	13.15	13.15	13.15	13.15	

出所：Factsetのスタンダード基準による計算を元にオメガインベストメント作成、小数点以下四捨五入。

## 株価推移



## 主要株価関連データ



## 財務データ I (四半期ベース)

単位: 百万円	2024/5		2025/5				2026/5		
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
[損益計算書]									
売上高	5,857	8,418	8,370	6,507	6,163	8,639	9,086	6,990	6,255
前年同期比	9.3%	6.4%	-0.6%	-1.2%	5.2%	2.6%	8.6%	7.4%	1.5%
売上原価	3,773	4,933	4,785	4,117	3,842	4,809	5,222	4,342	3,974
売上総利益	2,084	3,485	3,586	2,389	2,321	3,829	3,865	2,648	2,281
粗利率	35.6%	41.4%	42.8%	36.7%	37.7%	44.3%	42.5%	37.9%	36.5%
販管費	1,710	1,989	1,856	1,894	1,908	2,177	2,072	2,014	2,004
EBIT (営業利益)	310	1,418	1,652	448	370	1,579	1,712	589	230
前年同期比	-6.6%	11.2%	-9.9%	-33.2%	19.4%	11.4%	3.7%	31.4%	-37.7%
EBITマージン	5.3%	16.8%	19.7%	6.9%	6.0%	18.3%	18.8%	8.4%	3.7%
EBITDA	622	1,737	1,953	765	694	1,914	2,072	954	599
税引前収益	466	1,437	1,708	508	410	3,393	1,789	598	293
当期利益	289	1,061	1,153	322	247	2,387	1,194	350	156
少数株主損益	6	11	7	8	8	12	0	9	8
親会社株主帰属利益	283	1,050	1,146	314	239	2,376	1,194	340	148
前年同期比	24.9%	20.6%	-10.7%	-21.1%	-15.4%	126.2%	4.1%	8.3%	-38.0%
利益率	4.8%	12.5%	13.7%	4.8%	3.9%	27.5%	13.1%	4.9%	2.4%
[貸借対照表]									
現金・預金	14,057	14,641	16,248	16,534	15,910	19,146	19,862	20,036	15,998
総資産	31,703	36,195	34,614	35,209	33,879	40,058	38,452	38,850	37,422
債務合計	139	107	100	93	85	209	184	167	89
純有利子負債	-13,917	-14,534	-16,148	-16,441	-15,824	-18,937	-19,677	-19,869	-15,908
負債総額	5,593	8,194	6,088	6,544	5,539	9,331	7,630	7,728	6,602
株主資本	25,766	27,645	28,161	28,294	27,959	30,335	30,440	30,757	30,447
[収益率 %]									
ROA	9.16	8.66	8.57	8.18	8.39	10.69	11.29	11.20	11.38
ROE	11.40	11.50	10.65	10.28	10.24	14.06	14.07	14.05	13.90
[一株当り指標: 円]									
EPS	21.8	80.9	88.3	24.2	18.4	183.0	92.3	26.4	11.5
BPS	1,985.4	2,130.2	2,170.0	2,179.8	2,154.0	2,337.1	2,358.7	2,382.8	2,358.8
一株当り配当	0.00	40.00	0.00	45.00	0.00	45.00	0.00	60.00	0.00
発行済み株式数 (百万株)	13.15	13.15	13.15	13.15	13.15	13.15	13.15	13.15	13.15

出所：Factsetのスタンダード基準による計算を元にオメガインベストメント作成、小数点以下四捨五入。

## 財務データ II (通期ベース)

単位: 百万円	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
[損益計算書]								
売上高	15,792	18,258	19,117	24,777	25,318	27,568	29,278	29,679
前年同期比	4.2%	15.6%	4.7%	29.6%	2.2%	8.9%	6.2%	1.4%
売上原価	9,590	11,388	11,484	15,071	14,891	16,596	17,542	17,554
売上総利益	6,202	6,870	7,633	9,706	10,427	10,972	11,736	12,125
粗利率	39.3%	37.6%	39.9%	39.2%	41.2%	39.8%	40.1%	40.9%
販管費	4,541	4,946	5,247	6,878	6,641	6,923	7,253	7,818
EBIT (営業利益)	1,534	1,780	2,245	2,707	3,561	3,812	4,232	4,049
前年同期比	3.9%	16.0%	26.1%	20.6%	31.5%	7.1%	11.0%	-4.3%
EBITマージン	9.7%	9.7%	11.7%	10.9%	14.1%	13.8%	14.5%	13.6%
EBITDA	2,149	2,424	2,852	3,646	4,732	5,031	5,482	5,326
税引前収益	1,691	1,913	2,453	2,933	3,630	4,010	4,454	6,018
当期利益	1,137	1,273	1,685	1,804	2,301	2,625	3,049	4,110
少数株主損益	26	36	130	164	51	29	35	35
親会社株主帰属利益	1,111	1,237	1,555	1,640	2,250	2,596	3,014	4,076
前年同期比	2.7%	11.3%	25.8%	5.4%	37.2%	15.4%	16.1%	35.2%
利益率	7.0%	6.8%	8.1%	6.6%	8.9%	9.4%	10.3%	13.7%
[貸借対照表]								
現金・預金	6,751	7,845	7,365	9,745	10,296	13,139	14,641	19,146
総資産	20,033	22,442	26,450	30,972	30,924	33,444	36,195	40,058
債務合計	102	749	2,808	702	441	367	107	209
純有利子負債	-6,650	-7,096	-4,557	-9,042	-9,856	-12,773	-14,534	-18,937
負債総額	5,488	7,082	9,867	8,504	7,560	8,361	8,194	9,331
株主資本	14,248	15,000	16,083	21,920	23,069	24,763	27,645	30,335
[キャッシュフロー計算書]								
営業活動によるキャッシュフロー	1,577	1,829	3,111	2,569	2,802	4,794	3,412	4,391
設備投資額	601	528	1,146	1,183	945	824	1,052	957
投資活動によるキャッシュフロー	-940	-806	-5,229	-1,395	-957	-763	-889	1,248
財務活動によるキャッシュフロー	-481	-30	1,477	1,193	-1,234	-1,192	-1,371	-1,127
フリーキャッシュフロー	1,468	1,753	2,689	2,486	2,734	4,608	2,860	4,083
[収益率 %]								
ROA	5.75	5.82	6.36	5.71	7.27	8.06	8.66	10.69
ROE	8.00	8.46	10.01	8.63	10.00	10.85	11.50	14.06
当期利益率	7.03	6.77	8.14	6.62	8.89	9.42	10.30	13.73
資産回転率	0.82	0.86	0.78	0.86	0.82	0.86	0.84	0.78
財務レバレッジ	1.39	1.45	1.57	1.51	1.38	1.35	1.33	1.32
[一株当たり指標: 円]								
EPS	99.4	110.6	139.0	130.0	171.3	197.7	231.8	314.0
BPS	1,274.7	1,342.0	1,409.7	1,672.2	1,754.8	1,895.9	2,130.2	2,337.1
一株当たり配当	50.00	50.00	54.00	54.00	58.00	70.00	80.00	120.00
発行済み株式数(百万株)	12.94	12.94	12.94	13.15	13.15	13.15	13.15	13.15

出所：Factsetのスタンダード基準による計算を元にオメガインベストメント作成、小数点以下四捨五入。



## General disclaimer and copyright

本レポートは当該企業への取材や決算資料等を元に作成・表示したのですが、その内容及びデータの正確性、完全性、信憑性を保証するものではありません。本レポートは、情報提供のみを目的としており、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。オメガインベストメントは、本レポートの使用により発生した結果について一切の責任を負うものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への取材を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はオメガインベストメントの Recherche によるものです。

本文及びデータ等の著作権を含む知的所有権はオメガインベストメントに帰属します。配布、譲渡、複製、及び転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。